

スコアリング貸出の収益性

蓮見亮・平田英明

〈要 旨〉

本稿では、2000年代以降一般化してきたスコアリング貸出が、収益性のあるビジネスとして機能していくための必要条件を、定量的な情報を用いて明らかにする。金融機関の貸出行動をモデル化し、市場で実際に活用されたスコアリングモデルを使って貸出シミュレーションを行ってみると、スコアリング貸出には、通常の貸出と比べても遜色のない収益性が期待でき、貸出供給を拡大させられる。ただし、財務諸表のみに頼るスコアリング貸出には限界があり、スコアリングモデルにおける除外変数バイアス、粉飾を含めた中小企業データの質の問題、業種ごとに異なるスコアリングのなじみ方、借入企業の逆選択問題などが、スコアリング貸出の収益性を確保する上で重要なポイントである。そして、事前面談やモニタリングなどがこれらの問題を解決する上で有効である。